

【第38セミナー 受講者からの感想・ご意見】

平成28年6月9日（木）神戸開催

とても参考になる内容だった。テンポがやや速かったので、4時間程度かけてゆっくりやって欲しい。

アンサーパッドが使用できる場合は、今後トライできると思います。

SGD の検討時間がもう少し欲しいと思いました。

非常に密度の濃い内容だったのでもう少しじっくりと聴講したかったです。

セミナー運営側も同じ様に希望しますが、会場設備や予算および時間の関係上、実施可能な範囲でセミナーを開催せざるを得ない、という事をご了解下さい。

症例 ⇒ 講義 の順がよかった。理解しやすい。

症例を先にやって、それに関する解説（レビュー）をする、という流れはとても聴きやすいと思いました。

Common な疾病や状況に対する基本的な対応をご講演頂き、知識が整理されて良かった。

Case-based lecture（case を先に学習し、その後、関連する lecture を聴く）として開催する試みで前回までと順を入れかえてみました。

グループによる回答はテンポが悪くなるのではと思います。質問に対して各自考えるという以前のやり方の方が個人的には好きでした。

そのような御意見もあると思いますが、small group discussion を取り入れてみて初めて、聴講者の方々にもどのようなお考えがあるかを運営サイドとして知ることができました。

限られた時間ではありますが、可能な限り双方向性を取り入れたいと考えています。

高齢者肺炎のセミナーをしてほしい。

術後の感染管理において役に立った。今後、病棟で活動し行く上で本日得た知識を活用して行きたい。

事例2について：あのような状態で下部消化管内視鏡検査を施行するのはリスクのあることだと思いますが、今回はすぐに手術ができる環境を整えた上で内視鏡を行ったとのことで素晴らしいと思いました。

スライドがかなりタイトな印象でした。集中治療に従事している者として学ぶことが多かったです。

米国では 1990 年代に ASP は始まっているのに 20 年も遅れて日本で取り組みを始めることに対して感染症専門医とされている医師は他の専門領域の医師へどのようにアプローチをしてきたのか、あまりにも医師の quality が poor !

北海道開催を増やして欲しい。

東京、大阪が受講しやすいです。

平日開催はなるべく避けてほしい。セミナーのためだけに業務を休むことができない者がいることも理解してほしい。

講演が三つは多い気がする。少し慌ただしい感じがしました。

講演もディスカッションがあった方が良い。

症例は 1 例でも良いかと思いました。

今回の 2 例目は非常に稀な症例でした。もう少し common な症例を希望します。

SGD のグループをもっと増やしてもらったら参加したい。

診断部分は薬剤師には難しい。

小児感染症についてもセミナーで取り上げて欲しいです。

Viral infection についてもっと知りたい。

投与期間についてディスカッションする企画を増やして欲しい。

産婦人科や泌尿器科などの事例も case study で取り上げて欲しい。

実例を基にした感染症診断のアプローチ、抗菌薬選択と治療を、もっと各領域別に設定して、質問 - 回答、ディスカッションスタイル (今回の前半) の時間を長くして欲しい。

Case study 2 例目はこのセミナーの症例としては不適切、大学病院の特殊な症例は勉強になりません。ベッドサイドで役立つ症例を。

内容が充実していて期待どおりのセミナーであった。Case study での議論・討論が充実していました。

内容の割に時間が短かった。

カテ感染についての内容を盛り込んで欲しい。

専門家の先生の見解が異なる時のディスカッションの時間を長くにとって欲しい。

ご聴講の皆様方から上記のような多くの御意見・ご希望をお聞かせ頂きました。

可能な限りご希望に沿う内容を企画したいと思います。一方で、医師、薬剤師を含む多職種の方がご聴講になり、医師は専門分野も異なり、また各職種の方々の経験年数にも幅があるため、ご要望も非常に多岐に渡っていることをご理解下さい。

現在、年4回の本セミナーは夏の1日コースを除いては学会開催に合わせて行っておりますので、開催曜日や開催地など、全てにご希望どおりに沿える訳ではございません。

なお、本セミナーの主対象はあくまでも臨床医であることをご確認下さい：薬剤師には専門的過ぎて難しい箇所があるかも知れませんが、臨床現場での重要なアセスメントや意思決定のプロセスを職種を超えて認識することにも意義があると考えます。薬剤師固有のご要望については、抗菌化学療法認定薬剤師講習会にご意見をお届け下さい。

出席の受け付けも、一定の医師の出席割合を確保しておく必要があることをご理解下さいますようお願い致します。